

広島観音マリーナ利用心得



艇長は出港する際この「利用心得」を必ず携行しましょう。

株式会社ひろしま港湾管理センター

広島観音マリーナ利用心得及び航行安全規則

広島観音マリーナを利用する皆様は、「広島観音マリーナ利用心得」をよく読んで、記載された事項を厳守してください。また、いざという時に備えて、出港する際は、携行することを心がけてください。

1 利用心得

(1) マリーナの営業時間・・・9:00～17:00

定休日:毎週火曜日（ただし、当日が祝日である場合は、その翌日）及び当社が別途定める日とさせていただきます。

(2) マリーナでの注意事項

- ① マリーナ水域での水上スキー、ウィンドサーフィン、水上オートバイ等は、禁止させていただきます。
- ② 航路及びその周辺においては、投錨禁止です。但し、切迫した危険を避けるため、やむを得ない場合は、この限りではありません。
- ③ マリーナ水域内においては、みだりに投錨しないでください。
- ④ 集団での並列縦列航行は、他の艇の航行のさまたげになりますので、適宜分散して航行してください。
- ⑤ 各自艇の周辺等マリーナ美化にご協力ください。
- ⑥ 盗難、その他艇置上の事故については、マリーナとして一切責任を負いませんので、充分注意してください。
- ⑦ ボートヤード内には、自転車、自動車等を乗り入れないでください。
- ⑧ マリーナ水域内での、マリントイレの使用は、禁止とさせていただきます。
- ⑨ 栈橋へ係留する時は、荒天時等、他艇との接触を考え、しっかり係留してください。
- ⑩ 係留後、雨水の打ち込み又は盗難防止のため、船体開口部は、確実に閉鎖するよう、注意してください。
- ⑪ マリーナ識別ステッカーについて
 - ・施設使用許可承認の際に、交付を受けたステッカーは、指定された箇所に貼り付けるとともに、みだりに剥離又は損傷しないように注意してください。又、ステッカーを失った場合は、直ちにマリーナ事務所に申し出てください。
- ⑫ 栈橋、ボートヤードその他施設内には、私物等一切置かないようお願いいたします。
- ⑬ マリーナ水域内での潜水は禁止です。
- ⑭ ゲスト等のマリーナ利用上の注意
 - 利用契約艇に、ゲスト等を同乗させるにあたり以下のルールを遵守ください。
 - ・暴力団員及びその親交者を当マリーナより乗船、下船させることは、ご遠慮ください。
 - ・マリーナメンバーの方は、ゲスト等の方の車も、必ず、荷物を降ろしたら有料駐車場へ入庫するようご指示ください。

2 航行安全規則

(1) 出港時の安全対策～出港前の準備及び港域内の航行に関して守っていただく事項を記し、無事故を主旨、目的として遵守いただくものです。

- ① 船長は、出港前に必ずテレビ、ラジオ、マリーナ内に設置されている気象情報システムを参考にして無理のない航行を心掛けてください。
- ② 船長は、出港届を必ずフロントへ提出してください。
- ③ 海技免状、船舶検査証書、船舶検査手帳等の法定書類を積み込みましょう。
救命浮環、救命胴衣、消化器、工具、予備品等の法定備品を積み込みましょう。
- ④ 出港前に、船体、機関等の点検を励行しましょう。 **-P6**
- ⑤ 連絡体制を確保しましょう。電波の届かないエリアがありますので充分注意してください。 **-P6**
- ⑥ マリーナクラブハウス内の掲示板の連絡事項を必ず確認してください。

(2) 出港の制限

- ① 船長は、気象・海象状況をよく把握し、船長の責任において出港するか否かの判断を行なってください。
しかし、明らかに出港が危険とマリーナ側が判断した場合は、その指示に従っていただきますようお願いいたします。

<出港禁止基準>

	風速（平均）m/s	波高	視界（m）	出港禁止の旗の種類	旗の意味
小型ボート	8	1	800	黄 旗	小型ボート以下は出港禁止
中・大型ボート	10	1.5	800	黄赤旗	中・大ボート以下は出港禁止
クルーザーヨット	12	1.5	800	赤 旗	全艇出港禁止

※出港禁止の連絡方法

- ・ マリーナ広場前の掲揚ポールに上記基準の旗を掲揚いたします。
- ・ マリーナクラブハウス内の掲示板へ貼り出します。
- ・ 場内放送もいたしますので、ご注意ください。

②夜間航行の自粛:原則として、日の出前、日没後の出港は、自粛してください。

(3) 出入港時の安全対策 **-P7～10**

- ① マリーナ水域内は、他艇の迷惑にならないよう、微速（引き波をたてない）にて、航行してください。
- ② 出港は、南防波堤の西側を、入港は、南防波堤の東側を微速にて航行し、ディンギーヨットには、充分注意を払ってください。
- ③ 出入港時は、出船優先及び右側通行を厳守してください。
- ④ 出港にあたっては、防波堤により、左右の視界が遮られるため、東・西防波堤上の航行援助施設（カーブミラー）を利用して内外の安全確認を励行してください。
- ⑤ マリーナ南側海面には、カキ筏が多数設置されています。これら漁労作業等の支障にならないよう、注意して航行してください。
- ⑥ マリーナ水域内での帆走は、行わないでください。
- ⑦ 西飛行場滑走路沖の海域には、飛行機の離発着の支障となるため、クルーザーヨットは航行しないよう注意してください。

(4) 航行中の安全対策

- ① 航行にあたっては、常に安全を旨とし、諸海事関係法令及びこの基準を遵守してください。
- ② 定員を厳守し、ライフジャケットは、全員着用するよう心掛けましょう。
- ③ 航行にあたっては、旅客船、貨物船等の航行を阻害しないよう注意をし、航路の横断は、最短距離で航行してください。
- ④ 船長は、航行中に気象、海象の急変が予想されると判断した場合、その状況に即して、最寄りの港に避難又は帰港等の措置を講じるよう心掛けてください。
- ⑤ また、航行中止等、出港届に変更が生じた場合、速やかにその旨をマリーナに連絡するよう心掛けてください。

(5) 入港後の安全対策

- ① 流出したり、他船に接触しないようしっかり係留してください。
- ② 機関停止前には、十分に冷気運転を行なってください。
- ③ 開口部を確実に閉鎖してください。
- ④ 入港後は、マリーナクラブハウスフロントの無人受付ステーションで必ず「帰港（退場）入力」を行なってください。

(6) 事故発生時の措置について

①事故発生の通報

- ・船長は、携行した通信手段（携帯電話等）により「事故時の通報事項」に従って最寄りの海上保安部署に速報するとともに、マリーナに連絡してください。



②事故時の通報事項

- ・事故が発生した場合は、先ず落ち着いて、冷静に状況を判断して、次の事項について通報してください。
 - ア) 場所（著名な物標からの方位と距離）
 - イ) 事故発生時間
 - ウ) 事故の種類（他船との衝突、筏への乗り揚げ、機関の故障、火災等）
 - エ) 負傷者の有無（負傷者がいる場合は、人数とその状況）
 - オ) 浸水の有無、油流出の有無
 - カ) 通報者の名前と連絡手段（携帯電話の番号等）
 - キ) 船名、乗組員数
 - ク) 航行継続の可否

③事故発生時の応急措置

- ・船体についてはP12～15、人についてはP16～20を参考にして、落ち着いて応急措置を施してください。

点検項目

船体・機関を点検する

<船体>

- ☐ 船底プラグは確実に閉鎖されていますか。
- ☐ 船底にビルジは溜まっていますか。
- ☐ 機関室内の配管等で海水がにじんだり塩が付いている箇所はありませんか。
- ☐ 係留索に損傷はありませんか。
- ☐ 船灯（マスト灯、両色灯等）は点灯しますか。
- ☐ 舵輪と舵は滑らかに作動しますか。
- ☐ 破損している箇所はありませんか。
- ☐ 水、食料等の積荷はバランスよく積まれていますか。

<機関始動前>

- ☐ バッテリー液は適量ですか。
- ☐ バッテリーターミナルはゆるんでいませんか。
- ☐ バッテリー電圧は十分ですか。
- ☐ Vベルトに緩みやへたり、亀裂はありませんか。
- ☐ 燃料こし器に水があつたりゴミが詰まっていますか。
- ☐ 燃料は十分ですか。
- ☐ 潤滑油は適量で、粘度は適切ですか。
- ☐ ラジエター液は適量入っていますか。
- ☐ 機関取り付けボルトは緩んでいませんか。
- ☐ 船外機船にあっては船外機はきちんと固定されていますか。
- ☐ 冷却水取り入れ口付近及び冷却水こし器にゴミはありませんか。
- ☐ クラッチレバー、スロットルレバーは円滑に作動しますか。
- ☐ クラッチは中立位置にありますか。
- ☐ エアフィルターは汚れて目詰まりしていませんか。

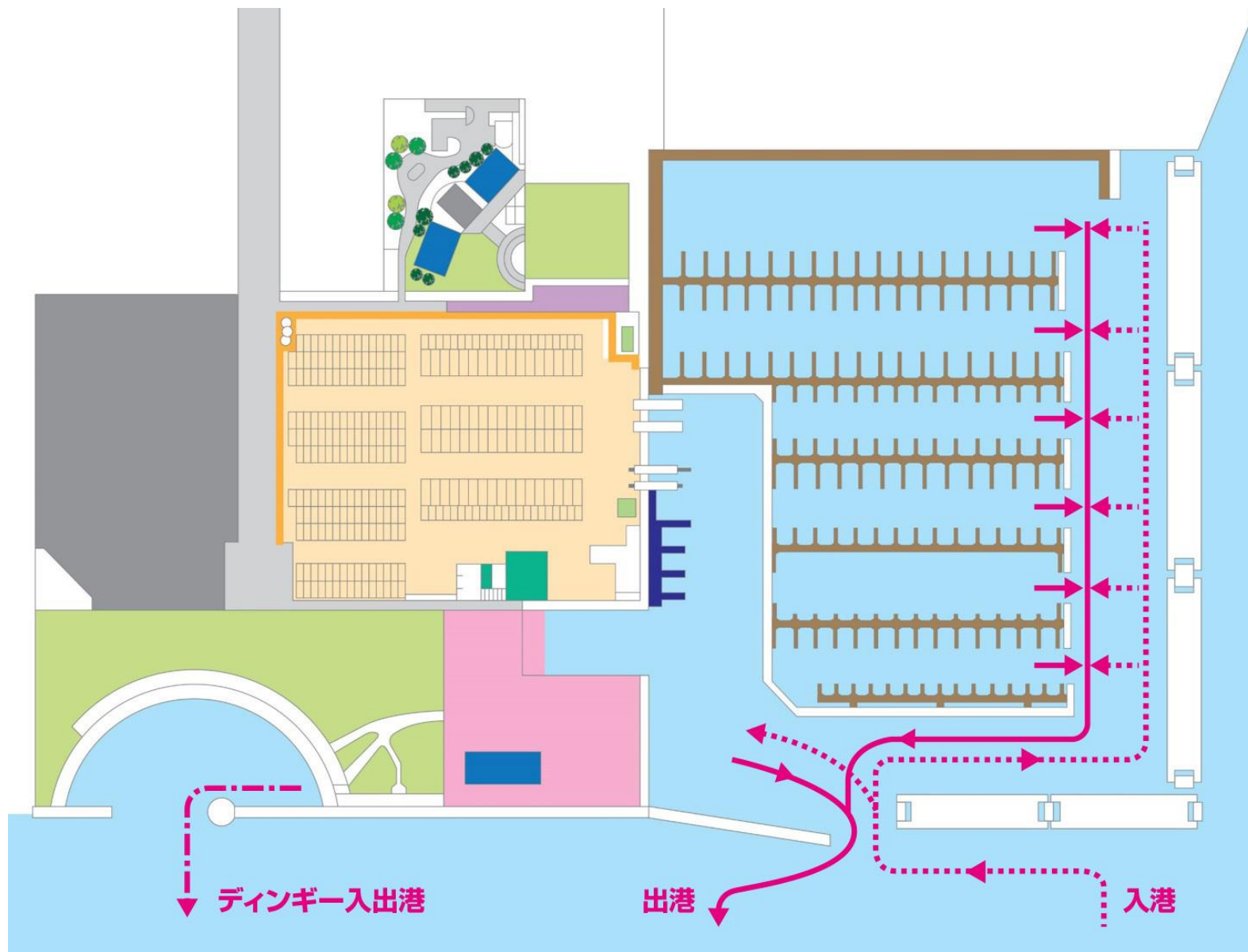
<機関始動後>

- ☐ 各圧力計は適正範囲（グリーンゾーン）内にありますか。
- ☐ 冷却水排出口から冷却水は出ていますか。
- ☐ 排気色は無色で、異臭はありませんか。
- ☐ 異常音（不連続音、きしみ音、叩き音等）はありませんか。
- ☐ 機関から水、油、排気ガスの漏れはありませんか。
- ☐ プロペラシャフト貫通部からの水漏れはありませんか。
- ☐ Vベルトが異常に振れ回っていませんか。
- ☐ 適正に暖気運転を行っていますか。
- ☐ 冷却水温度計は適正範囲ですか。
- ☐ 潤滑油温度計は適正範囲ですか。
- ☐ 排気ガス温度計は適正範囲ですか。

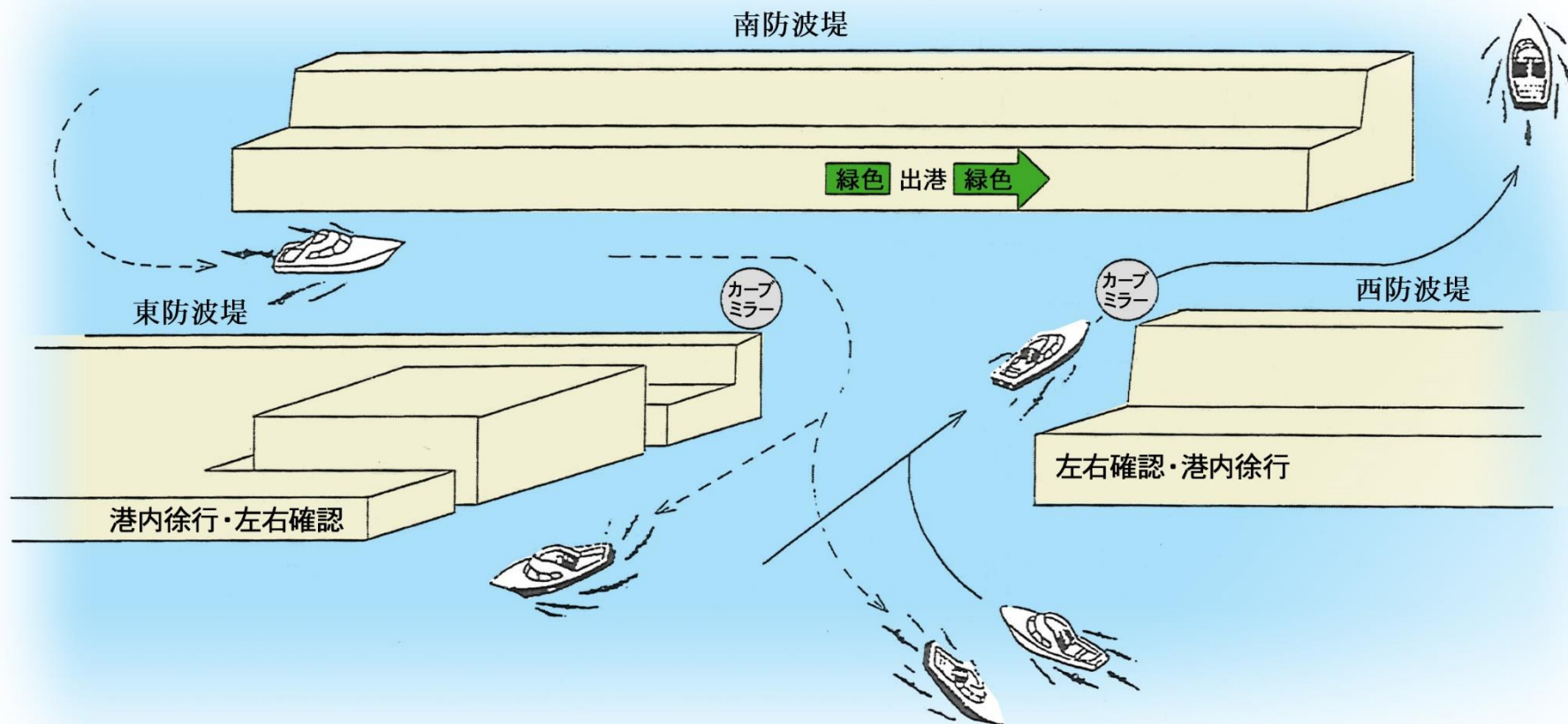
連絡体制を確保する

- ☐ 家族、知人、マリナーなどに航海計画を連絡しましたか。
- ☐ 家族、知人、マリナーなどとの連絡手段は確保されていますか。
- ☐ 無線機の通信テストは終わりましたか。
- ☐ 携帯電話の通話可能範囲ですか。

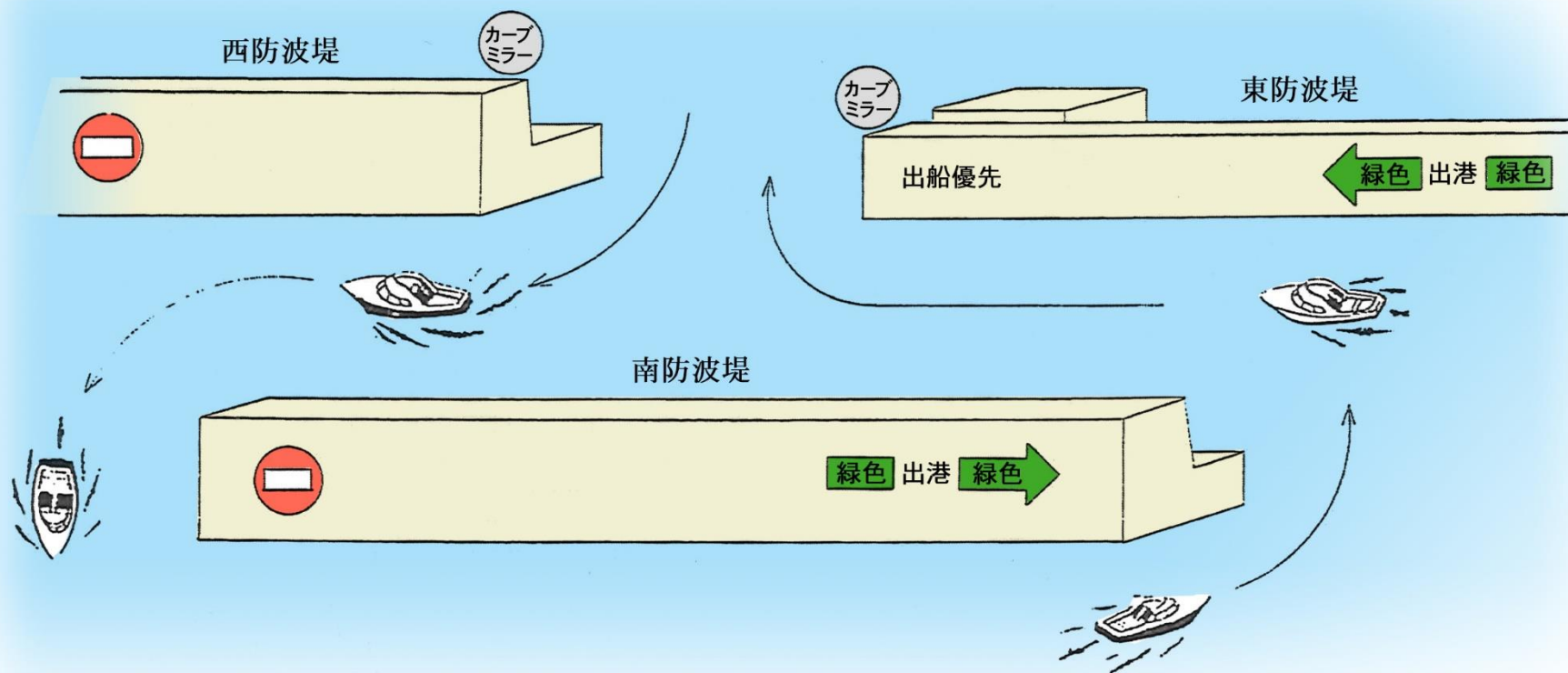
マリーナ内入港路



マリーナ出港時の航行方法



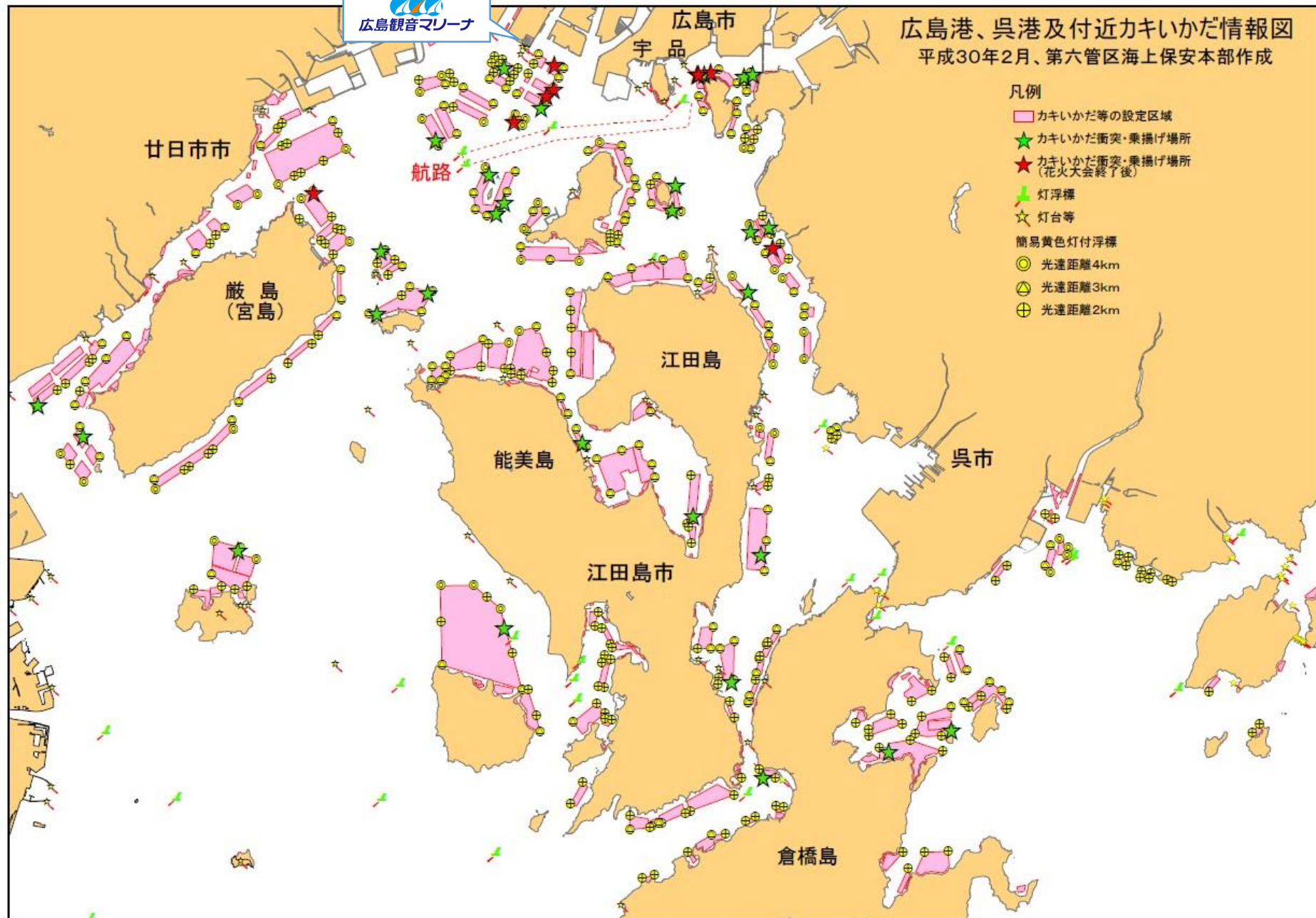
マリーナ入港時の航行方法



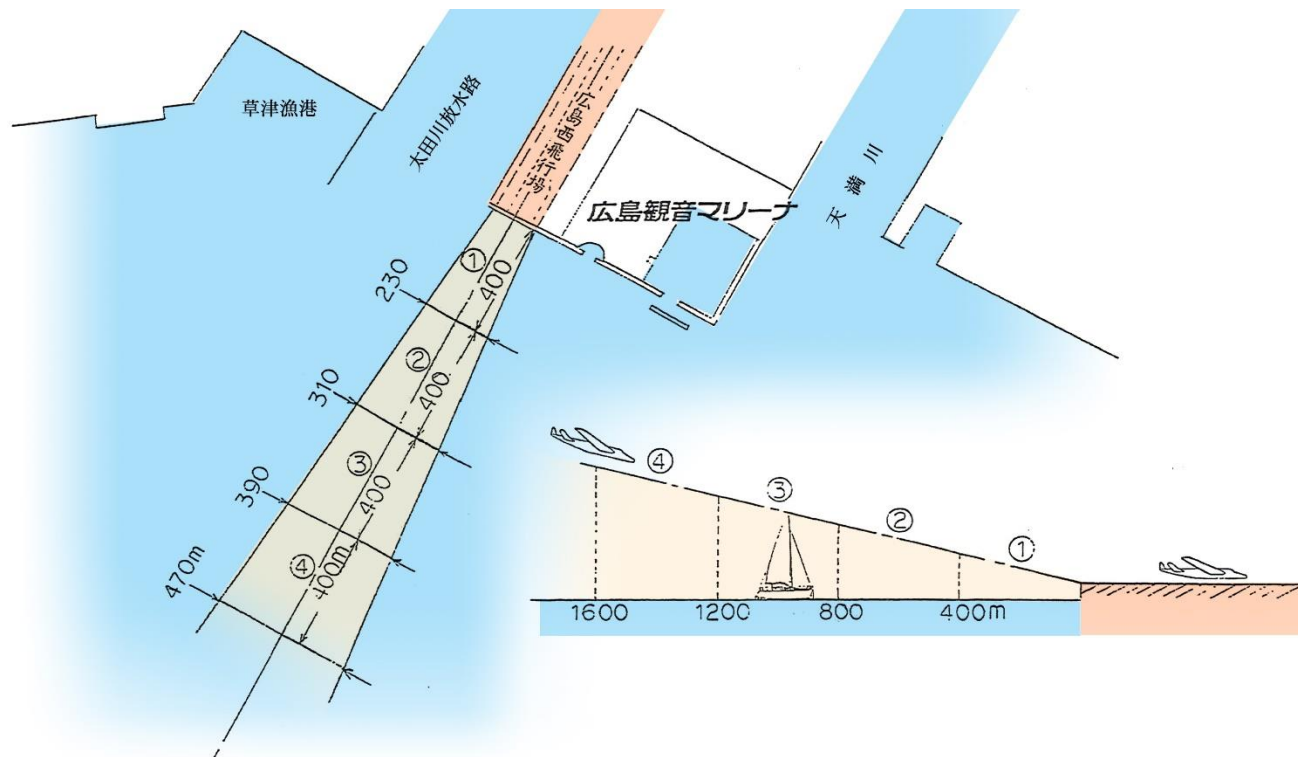
広島港、呉港及付近カキいかだ情報図 平成30年2月、第六管区海上保安本部作成

凡例

- カキいかだ等の設定区域
- カキいかだ衝突・乗揚げ場所
- カキいかだ衝突・乗揚げ場所
(花火大会終了後)
- 灯浮標
- 灯台等
- 簡易黄色灯付浮標
- 光達距離4km
- 光達距離3km
- 光達距離2km



広島西飛行場前面海域におけるクルーザーヨット航行上注意事項



広島西飛行場沖において、航空機の離発着に影響を及ぼす恐れがありますので、特にクルーザーヨットは注意くださいますようお願いいたします。

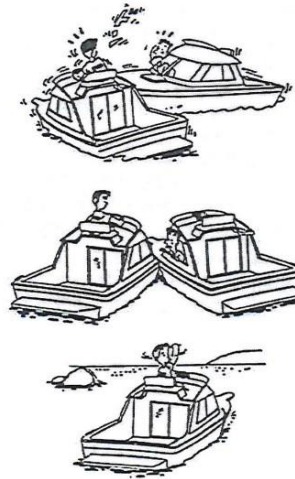
全高 \ 区域	①	②	③	④	以外
14.6m以上	×	○	○	○	○
24.6m以上	×	×	○	○	○
34.6m以上	×	×	×	○	○
44.6m以上	×	×	×	×	○

事故時の応急措置

緊急処置（万一事故が起きた時）
万一の事故に備えて、次の緊急処置を心がけましょう。

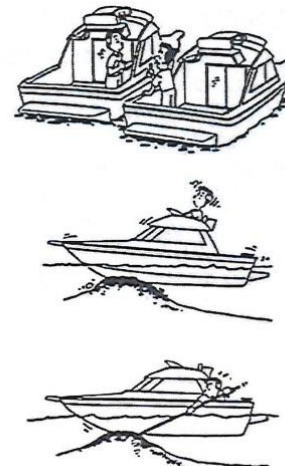
衝突の場合における処置

- ①エンジン停止。
- ②第一に人命救助につとめます。
- ③損傷の箇所と程度を調べ、浸水がないことを確認した後でなければ、エンジンを後進にかけてはいけません。
- ④衝突時の船首方位、時刻、船の位置を確かめておきます。
- ⑤自船・他船とも損傷が軽く、走航に差し支えない場合は、互いに船名・船主名・船籍港・発着港を知らせます。



乗り揚げた場合の処置

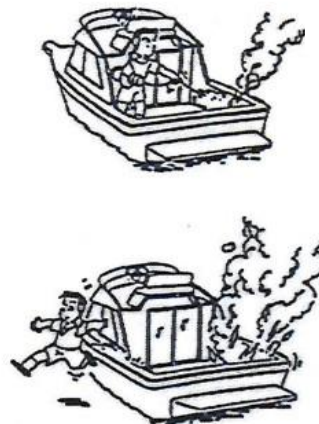
- ①エンジン停止。
- ②損傷の有無、進水状況、海底質、水深を調べます。
- ③区域によっては黒球（夜間の場合は紅燈）をかかげます。
- ④航行に支障のない場合、オールやボートフックなどで水深を確認し、水深のある方へ移動させます。
- ⑤すぐ後進にかけてはいけません。
 - ・プロペラを損傷する。
 - ・エンジンに泥砂を吸い込む（オーバーヒート）。
 - ・船体破口を大きくする。
 - ・沈没する。などの危険があります。



事故時の応急措置

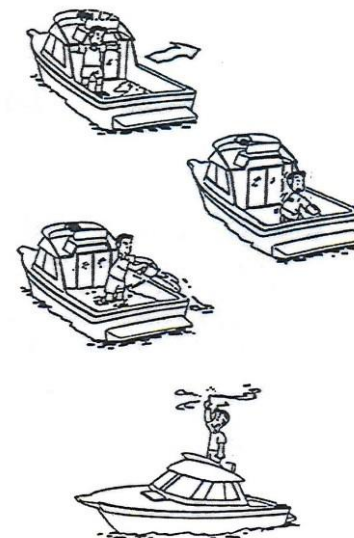
エンジン部から火災が生じた場合の処置

- ①火元を風下にするように操船します。
- ②エンジンを停止し、燃料の供給を切ります。
- ③消火器（粉末式消火器が有効）で消化します。消火器で鎮火しない場合は、バケツなどで大量の水をかけます。
- ④消化にあたる人員以外は、遭難信号を発し、救助を求めます。
- ⑤火が船全体に回ってきて、消化の望みがない場合は、全員救命胴衣を着用し、離船して現場からあまり離れぬようにして、救助を待ちます。



浸水の場合における処置

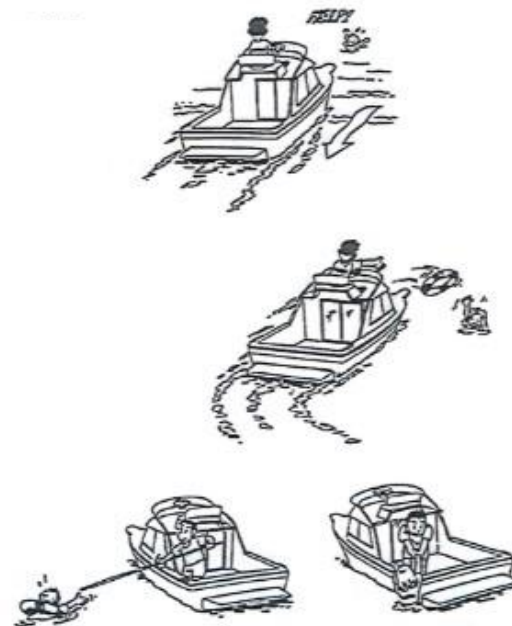
- ①浸水部を風下側にします。
- ②エンジン停止。
- ③浸水を止めます。
船底が破損した場合は船を止め、破損個所に適当なつめ物や当て物（衣類、布、マット、ガムテープなど）をして浸水を防ぎます。
波の打ち込みがある場合は、波の打ち込みを少なくするように船の向きを調整します。
- ④排水につとめます。・・・ビルジポンプ・バケツなど
- ⑤最寄りの陸岸へ向かいます。
- ⑥防水・排水ができなく、近くに陸岸がない場合は遭難信号を発し、全員救命胴衣を着用し、離船して現場からあまり離れぬようにして、救助を待ちます。



事故時の応急措置

落水者の救助処置

- ①直ちにエンジンリモコンレバーを中立（ニュートラル）にし、落水した方向に転舵します。
（プロペラで落水者を傷つけない）
- ②ブイや救命胴衣など浮くものを、落水者に投げます。
- ③風下側から落水者に近づいて、エンジンを停止します。
- ④オール、ボートフックやロープなどで落水者を引き寄せます。
- ⑤プロペラが停止しているか確認して、トランサムから落水者を引き上げます。



突発的に荒天になった場合の処置

- ①全員救命胴衣を着用します。ライフベルト（命づな）があれば使います。
- ②荷物など移動する恐れのあるものは、すべてロープでしばって移動しないようにします。
- ③ハッチ類は完全に閉め、艇内への浸水を防ぎます。
- ④艇内に打ち込んだ水を排出します。



事故時の応急措置

エンジンやプロペラが故障した場合の処置

- ①故障箇所を調べ、早急に修理復旧につとめます。
- ②修理に長時間を要する時には、適当な水深であれば
投錨をして、風や潮に流されるのを防ぎます。
- ③荒天の場合は、全員救命胴衣を着用します。ライフベルト
(命づな)があれば使用します。
- ④水深が錨泊に適さない時や、荒天の時は、シーアンカーや
長いロープをバウより流し艇が速く流されるのを防ぎます。
- ⑤荒天の場合は、ハッチ類を完全に閉め、艇内への浸水を
防ぎます。
- ⑥船内修理ができない場合は、他船か陸上へ遭難信号を
発して救助を求めます。



転覆した場合の処置

- ①決して慌てることなく、全員救命胴衣を着衣し、
ライフベルト (命づな) やロープで人員が艇から離れない
ようにします。
- ②人員数を確認します。
- ③沈没する恐れのある場合は、離船し、現場からあまり
離れないようにします。
また、陸岸に近くない場合は、むやみに泳がないようにし、
救助を待ちます。



すぐに役立つ応急手当

応急手当の順序

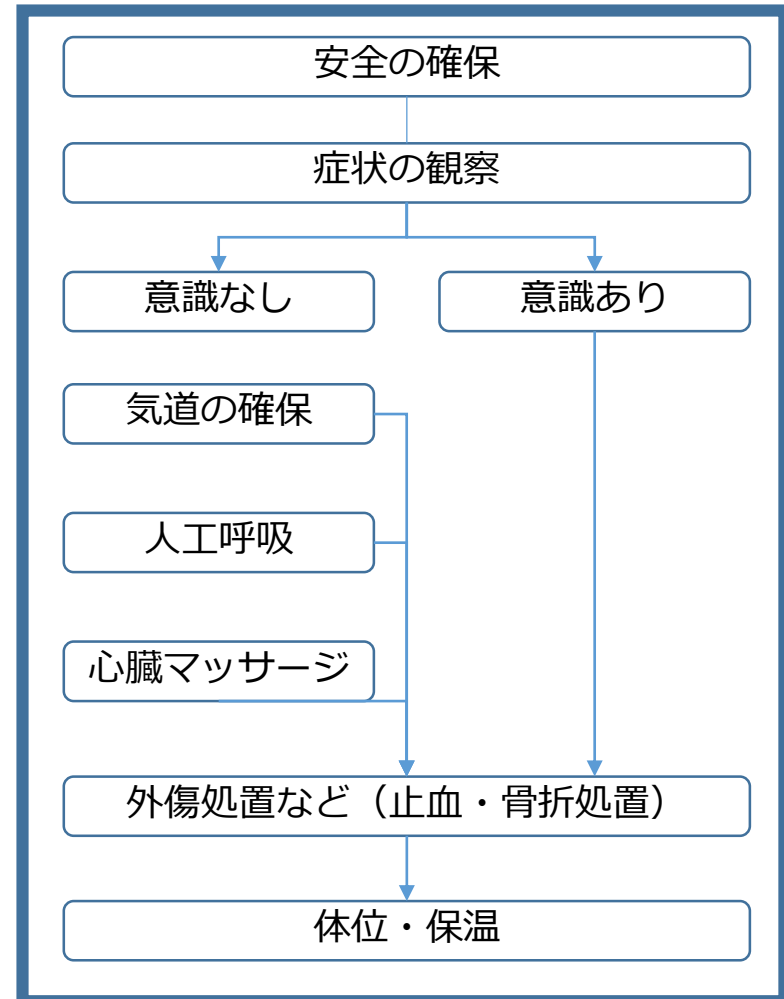
手当できる安全な場所の確保
まずは、傷病者の観察

●救命に必要な手当

- ・意識がない場合 → 気道確保
- ・呼吸がなければ → 人工呼吸
- ・脈がなければ → 心臓マッサージ
- ・出血がひどい時 → 止血

●悪化防止に必要な手当て

- ・骨折の時 → 副子などで固定
- ・傷がある時 → 三角巾などで
- ・やけどの時 → 清水で冷却
- ・吐き気・嘔吐の時 → 横向けに寝かせる



すぐに役立つ応急手当

人工呼吸（呼吸が止った時）

吐く息に16%の酸素あり

- 1.口の中に異物があれば取り除き気道確保を行う。
- 2.相手の鼻をつまみ、口全体を覆い胸が軽く膨らむように息を吹き込む。
- 3.吹き込みが終わったら、すぐ口を離し、相手の吐き出す息を感じればうまくいっている。
- 4.息を吹き込む回数は、最初2回、以後、大人は5秒に1回、子供は4秒に1回の割合で吹き込む。



心臓マッサージ（脈がない時）

手押しによる血液の循環

- 1.脈拍を5秒間観察しても触れない時は、直ちに心臓マッサージを行う。
- 2.固い平らなところに仰向けに寝かせる。
- 3.肩を相手の胸部の真上にもってゆき、ひじをまっすぐに伸ばし、圧迫する。

区分	圧迫する力	リズム
大人	胸が3.5cm～5cm沈む	1分間に80～100回
子供	胸が2.5cm～3.5cm沈む	1分間に80～100回



すぐに役立つ応急手当

心肺蘇生法

心臓マッサージは、誤った方法で実施すると肋骨骨折などを起こします。練習は生体では絶対に行わない。

●1人で行う場合

- 1.人工呼吸を2回続けて早めに行い、すぐ体を移して心臓マッサージを15回繰り返す。
- 2.それが終わったら、また人工呼吸を2回行うというリズムを継続して行う。



●2人で行う場合

- 1.1人が人工呼吸を、もう1人が心臓マッサージというように担当を決めて行う。
- 2.最初に2回人工呼吸を行ってから心臓マッサージを5回、人工呼吸を2回の割合で、2人で交互にリズムを保ちながら行う。



すぐに役立つ応急手当

止血法

ひどい出血は、直ちに止血しなければ、血液の不足からショックや意識障害を引き起こし、時に死に至ることもある。

- ・出血のしかたが強いかを調べる
- ・出血の状況に応じた止血法を選ぶ。
- ・大量の出血なら止血後、足を持ち上げて血液を心臓に集中させよう。

●直接圧迫法

きれいなガーゼなどを傷口に直接あてて強く圧迫し、包帯でやや強く巻くと大半の出血は止まる。



●指圧止血法

出血がひどい時は、脈のふれる血管を親指の内側で血が止まるまで骨に向かって圧迫する。



●止血帯による止血法

指圧止血法で止まらない場合、最後の手段として、5cm以上の幅のある布で血が止るまで締め付ける。1時間以上の出血は危険です。



すぐに役立つ応急手当

骨折処置

骨折と思われる場合には不用意に動かしてはいけません。

骨折の症状

- ・激しい痛みがある
- ・変形が見られる
- ・急激に腫れてくる
- ・皮膚の色が変わる

骨折処置（副子の固定）は、折れた骨が動くことによって容態が悪化することを防ぎます。

1. 副子は2関節にわたるよう固定する。
2. 骨折部は動かさない。
3. 変形しているときも、そのままの状態で固定する。

- 副子がない時は
副子の代用は、十分な硬さと適当な長さ、幅があれば、たいていのものは使えます。

